

## 本質を見抜く

NBA で活躍している八村塁選手においては、高校の恩師が彼の怠けグセを見抜き、技術よりもスポーツマンとしての内面性の育成に多くの時間をかけて向き合ったそうです。

また、MLB で世界に誇る日本人、大谷翔平選手は、試合や練習に集中している時であっても、周りに落ちているゴミを拾います。これは、高校時代の恩師からの教えに基づいており、「ゴミ拾いは運を呼び寄せる」という考えから始めたそうです。

この二人の共通点は、秀でた運動能力に着目しつつも、人間性を高める指導により、天性の身体能力を発揮できるようになったことではないでしょうか。スポーツに限ったことではありませんが、教えを乞う人との出会いが人生を大きく変えることはよく聞く話です。潜在能力を引き出すには、高いレベルのトレーニングを積み重ねていくことよりも、生まれ持った性格や本質にどのように向き合わせるかも必要となり、人間性を大きく左右します。そもそも人の本質とは、無意識の中にある意識で決まります。例えば、150 キロを投げる投手であっても、弱気な性格がピッチングに表れてストライクが全く入らなくなるようなことがプロ野球でもよくあります。少しでも早く人の本質を見抜くことが指導者にとって、とても重要なことと言えるのです。

ところで皆さんは、テニスの授業で、練習の後、先生からコートのボールを集めなさいと言われたら、とっさにどう行動しますか。ボール籠の周りに落ちているボールを集めるのでしょうか。それとも、一番遠いところにあるボールを取りに行くのでしょうか。誰かが率先して拾ってくれるだろう、または、早くたくさん集めれば次の練習ができるかなあと、このわずかな瞬間にでも心の中にある「無意識」としての感情が行動として現れるそうです。これがまさに、その人の本質です。かの有名なパナソニックの創始者、松下幸之助さんは、「人間はダイヤモンドの様に、光り輝く本質を持っている。しかし、この優れた本質も磨くことなしには発揮されることはない。」と言っています。このように本質とは、性格や個性とは違い、過去の経験が基盤になることが無く人間の持っている根本的な要素や特性のことと言えます。

さて、令和6年も気が付くと立冬を過ぎ、冬の足音がはっきりと聞こえてくる時期となりました。私は時々校内を散策しますが、生徒の笑い声、真剣な眼差し、鉛筆を走らせる音、教師のエネルギーなど、視覚や聴覚だけではなく、嗅覚までも刺激し、漂う空気感は、まさにコラムのタイトルのとおりで感じます。

ある日、いつものように体育館へ足を運ぶと、活気あふれる元気な声が聞こえてきます。足早に階段を下りた時、ふと、アリーナ前の通路にきれいに揃えられている体育館シューズに気が付きました。スポーツの楽しさばかりが優先される体育ではなく、整列や集合と同じようにこれらの所作を大切にすることは、学校にしかない「言葉で教えること」以上の学びがあります。

もし、学校が学力や進学実績ばかりを意識するのであれば、学校の本質は生産性ばかりを求める存在でしかありません。たかが靴を揃えることであっても、自分の靴だけでなく他人の靴にも意識を向け、揃えられていない靴があれば、自然に揃えようとする相手への気遣いや思いやりこそが人の本質です。見方を変えてみれば、勉強の成果を試験で発揮できない生徒であっても、レギュラーを取る事ができない補欠の選手であっても、教師の見えない所で直向きに努力する生徒に対してこそ、本質を見抜き、大器は晩成する強い信念でこれまでも、そしてこれからも向き合っていくことが大切なのでしょう。

時間を守ること、場を清めること、礼を重んじること、人として備えるべき本質を磨くことに必死に汗をかく教師のエネルギーとぶれない指導は校舎内のあちらこちらで学びの匂いとなり、大成高校の歴史を今日も刻んでいます。

令和6年11月

